

# からから 便り

## もくじ

- イベントのご報告
- インタビューシートを届けに  
せんだいメディアテークをたずねて
- 寄稿「1ページのたより」
- 各相談窓口
- 北海道における被災避難者の受入状況
- 編集後記

## イベントのご報告

### 旭川市市民活動交流センター CoCoDe 秋のCoCoDeまつり参加レポート

旭川市市民活動交流センター CoCoDe は、旧国鉄の工場として明治32年に建設された煉瓦造りの建物を活用し、2010（平成22）年6月に開館しました。明治時代、工場の設計に携わったのは、狩勝峠の名付け親でもある、明治期を代表する土木技術者 田邊朔郎といわれています。



写真提供：旭川市市民活動交流センター CoCoDe

11月2日(日)は時折激しい雨が降るあいにくの天気でしたが、延べ890人の参加者で賑わいました。主に旭川や道北で活動する市民団体が出店し、物販のほか日頃の活動紹介や体験コーナーやワークショップなど開催。私たちは相談コーナーのほか、せんだいメディアテーク「3がつ11にちをわすれないためにセンター（以下、わすれん）」との協働企画で、それぞれの体験談をふせんに書き記してもらおう「9月6日ブラックアウトのなかでーなに、食べた？ー」3月11日の記録を手がかりに「や、動画放映を行いました。」

おまつりがはじまって間もなく、「9月6日」にはられたふせんを読んでいた方に声をかけました。「なにを食べたか、だけではなく、こんなことがあった、という体験談も集めています」と説明すると、こんな話を教えてくれました。

その方は、いつからか耳鳴りがひどく、治らないまま生活してました。そして、あの日、ブラックアウトのあと、ものすごい静けさを感じ、あれ？と思ったら、耳鳴りが消えていたそうです。

「それでわかったのですが、耳鳴りは電磁波の影響だったんです」

日常生活で、電気から離れることは困難です。この方にとっては原因に気づくことができずブラックアウトでした。お話を聞いて「ぜひ、ふせんに書き残してください」とお願いしました。

さて、私たちの隣のブースでは、モールス信号体験が行われていて、朝から家族連れが次々と訪れていました。

「トンツ、トントン、ツ」  
自分の名前を、モールス信号で打つ、というもので練習用のアプリを使い、正確にできると「よくできました！」とスタッフの拍手がフロアに響きます。

昔から、どっという仕組みなのだろう、と聞いていたので聞いたところ、アルファベット一つ一つに音のパターンが決められていて、そのパターンをつないで打つ、というものでした。Nは「ツ、トン」Pは「トン、ツ、トン、トン」といった具合です。

よほどやりたそうな顔をしていたのでしよう。「今、あいているのでやってみませんか？」と聞いていただき、自分の名前を打ってみました。思ったより押すタイミングが難しく、何度か練習して拍手をいただきました。

今でも緊急時やデジタル通信が難しい場面で使われているというモールス信号。総務省HPの子ども向けサイトで体験できるので、試してみたいかがでしょうか？



からから便り Vol.2 でご紹介した「9月6日ブラックアウトの中でーなに、食べた？」。各地を回り、少しずつふせんが増えていきました。

総務省  
電波学習ポータル  
サイトにモールス  
信号体験コーナー  
があります！





# インタビューシートを届けに せんだいメディアテーク 3がつ11にちをわすれないためにセンター をたずねて



定禅寺通の木々が映り込む、ガラス張りの建物がメディアテーク。この2階にわすれん！資料室がある。下の写真はこの2階の角。

昨年9月、からから便りに同封して、みなさまにお送りした「インタビューシート」は、せんだいメディアテークにある、「3がつ11にちをわすれないためにセンター（略称：わすれん）」の企画として2023年3月にはじまったものです。そして今回、北海道NPOサポートセンターと協働でつくったのが、避難経路を記録するための「インタビューシート（避難のこと）」。

書いていただいたシートは、「東日本大震災の記録・市民協働アーカイブ」としてせんだいメディアテークが保存し、今後、WEBサイトや展示・研究・震災伝承等で公開・活用される記録のひとつとなります。12月3日、複数の方から返信いただいたインタビューシートを届けに、仙台市を訪れました。それまでオンラインでしかお会いしたことがなかったわすれん！担当の北野さん、平間さん、佐々木さんに会って、お話ししたかったのも訪問した理由のひとつでした。



わすれん！が立ち上がったのは、震災から約2か月後の2011年5月3日。立ち上げから関わっていた北野さんに、これまでの変遷をうかがいました。

「わすれん！は、記録と発信のためのプラットフォームとして立ち上げられました。最初のころはどこを見ても、何を見ても、日常と異なる景色だったので、映像や写真で記録する人が多く、映像の公開のしかたや撮影のしかたを一緒に考えながら、上映会などを企画することが多かったです。3〜4年経つと、それまで記録を続けていた人たちがその活動を終えていき、日常の中では震災のことが話題に出なくなりまして。そのため、震災に触れるきっかけとなる新しい企画や仕組み、たとえば『3月12日はじまりのごはん』や『録音小屋』など、来場者が記録することに参加できる企画や、『自分も記録したい』という思いをサポートできるような取り組みに変わっていきまして。そして、コロナ禍を経てここ数年は、『インタビューシート』のような文章や文字、言葉を残すことを意識しています」

昨年就職し、わすれん！の仕事に携わるようになった佐々木さんは、「ここは、書きたいな、残したいな」と思っている人が、それをしようとした時のためにある場所」と表現してくれました。「記録として残したいものを」書いてから、ではなく、書くまで、が大事なところだと思っていて、自分も何か記録を残したいな、と思った時に、どうやって書くか、どんなふうに、どこに残すのか、その方向を道しるべのように示してくれるのが、わすれん！なのかな、と思っています」



インタビューシートを書く机は、定禅寺通に面した、眺めの良いところにある。手前からスタッフの北野さん、平間さん、佐々木さん。

そんなわすれん！の資料室に行くのと、様々な人たちが残した記録（映像、写真、音声、ことばや文字）に触れることができます。インタビューシートはその中のひとつです。仙台市内にかぎらず、各地から訪れた人が書き残したシートを読んでいると、あの日を知る誰もが震災経験者、ということに気付かされます。

そして、私も何か書き残したい、と思い、鉛筆を手に書き始めるのですが、だんだん「私の経験がなにかの役に立つのかなあ？」と手が止まってしまい、書いていません。

「記録は今の人のために書いていくというより、将来の人のために書いていくので、（なにに役立つのか、ということ）今我々が判断することでもないのかな、と思っていて、なにに役立てるか、未来の人が考えることだと思っんです」と平間さん。そして、「今年、カムチャツカ半島の地震で津波警報が出た後に、震災の時に津波で被災した方が、ちょっと思い出してふらっと来まして、とインタビューシートに書き残してくれました。こんなふうに、何年か経つても、思い出した時に言葉を書き残せる場所がここにある、と認知されていることが大事なんだろうな、と思っています」

これから先、なにかをきっかけに、震災や避難の経験を書きとめたい、未来に伝えたいと思うことがあったら、「3がつ11にちをわすれないためにセンター」を思い出してください。きっと、同じように思った人たちのさまざまな記録に出会うことができると思います。



前頁にある「9月6日ブックアウトの中で」なに、食べた？」のふせんは、わすれん！のウェブサイトが公開されています。



# 寄稿 1ページのたより

15年前の3月11日。私は勤めていたコールセンターを退職し、有休消化中でした。当時住んでいた5階建のマンションはゆらゆらと長い時間揺れ、その揺れの大きさから震源は北海道だと思いました。

揺れがおさまり、倒れないように押さえていたテレビから手を離し、電源を入れ、震源が東北だと知りました。それからずっと、テレビをつければなしにしていました。

札幌では、その翌日の12日、今は「チ・カ・ホ」の愛称で親しまれている地下歩行空間の開通セレモニーが予定されていましたが中止となり、静かに開通しました。地震と大津波と原発の爆発、という途方もないできごとと、テレビとネット漬けで暗澹たる気持ちを抱え、情報に溺れかけた私は、2日後の14日、気持ちを切りかえようと、開通したばかりの地下歩行空間に行ってみることにしました。

今と違って、人通りも少なく、照明が抑えられたグレーな道を大通駅から札幌駅に向かって歩いていると、地上への出口を示す大きな「9」という数字が目に入りました。続いて「8」、そして「7」。3つの数字は私に起きたばかりの地震を連想させました。

「マグニチュード9。でも、最初はマグニチュード8.8って言うたっけ。最大震度は7」

今、気持ちを切りかえることはできないな、と思いました。

とはいえ、そもそも失業中で自分の生活の先が見えていない中、特段なにをしようとしていたわけではありません。ただ、ずっと目を逸らさないでいよう、と思いました。時間の経過とともに、他人事にならないように、被災地で何が起きているのか関心を持ち続けよう、溢れる情報に吞まれないよう自分なりに調べよう、と思いました。

それから4ヶ月が経ち、ハローワークで仕事を探していた時「北海道NPO被災者支援ネット」という団体の求人票を見つけ、応募し、採

用されたのがNPOで働くきっかけです。以来、震災関係の支援事業を担当して14年が過ぎました。

震災後はじめて福島県へ行ったのは2013年の秋。出張で東京へ行った時、1日時間をとり、日帰りでいわき市に行きました。市内に住む知人が、当時、車で行けるところをあちこち連れていってくれました。

いわき市から国道6号線で広野町、楢葉町と行き、富岡町から大熊町に入る手前にバリケードがあったと思います。はじめて岩手県と宮城県に行ったのは2015年の春、被災地への図書支援を続けていた北海道ブックシェアリング代表の荒井さんに声をかけていただき活動に同行した時です。まだ、陸前高田市に巨大なベルトコンベア「希望のかけ橋」

がありました。

各地の光景を目の当たりにしたとき、「今」の状況をわかりやすく伝える手段は写真だ、と思いました。以来、2022年までほぼ毎年東北へ行き、夫や友人と手分けして3県の写真を撮影し、イベントやYouTubeで公開していました。

ただ、この写真データは、管理する人がいなくなれば埋もれるか消えてしまいます。写真だけではなく、これまでお会いした方々から教えられたり聞かせていただいたお話や、さまざまな記録も記憶も、「のこした」を考えないとしまわれてしまいます。なので、個人としてこれからは「のこすひと」になれたらなあ、と思います。今日この頃です。

(金榮知子)



これからも、目を逸らさずに歩んでいきます!



東日本大震災の影響により  
道内に暮らしている方の

# 相談窓口

メールやFAX、  
お手紙でも  
ご相談ください

TEL **011・200・0973**

NPO法人 北海道NPOサポートセンター

平日 10:00~17:00

FAX 011・200・0974

✉ info@hnposc.net

〒064-0808  
札幌市中央区南8条西2丁目5-74  
市民活動プラザ星園 201



地下鉄東豊線「豊水すすきの駅」  
6番出口から徒歩約7分  
地下鉄南北線「中島公園駅」  
1番出口から徒歩約5分

岩手県、宮城県、福島県が設置する  
相談窓口はこちら。



## 岩手県

いわて被災者支援センター

電話 019-601-7640 (平日 9:00~17:00)

メール info@sumaiansin.net

## 宮城県

宮城県復興支援・伝承課

電話 022-211-2424 (平日 8:30~17:00)

メール denshoh@pref.miyagi.lg.jp

## 福島県

ふくしまの今とつながる相談室 toiro

電話 024-573-2731 (月・水・金 10:00~17:00)

メール toiro@f-renpuku.org ※祝祭日の場合は休み

## 北海道における被災避難者の受入状況

下記の避難者数は、復興庁が公表している「避難元へ帰還の意思を確認できた方」の数です。なお、北海道庁では、さらに幅広く「ふるさとネット」(右記参照)に登録しているみなさまに、お知らせ(本紙)をお届けしています。

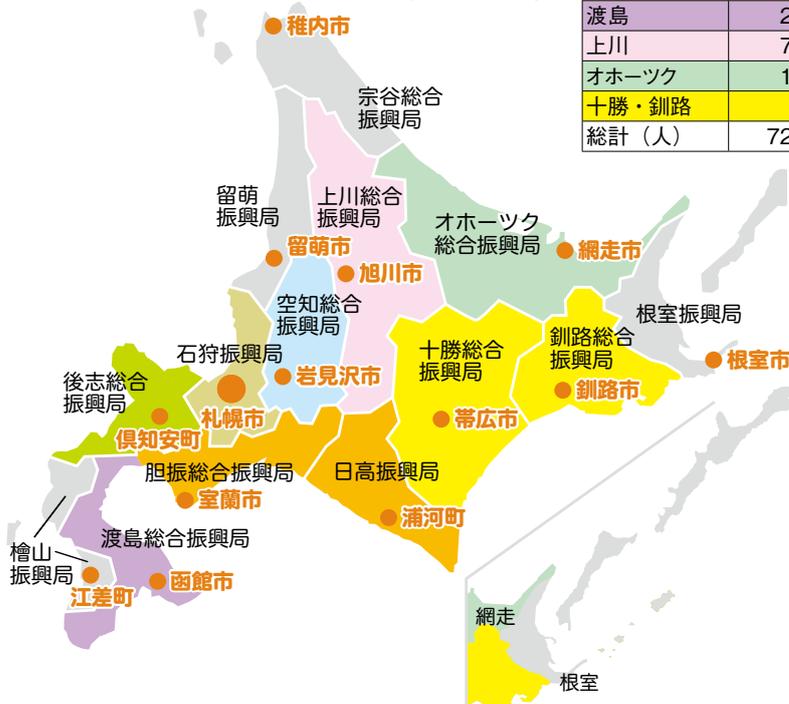
〈からから便り郵送世帯数(避難元別): 岩手県16、宮城県61、福島県170、その他32 ※2026年1月末現在

市町村別の受入状況は、北海道のホームページからご覧いただけます。



2025年11月1日現在

空知	28
石狩	504
後志	31
胆振・日高	48
渡島	22
上川	74
オホーツク	14
十勝・釧路	8
総計(人)	729



## 全国避難者情報システム「ふるさとネット」の登録について

「からから便り」は「ふるさとネット」の登録情報をもとに発送しています。「ふるさとネット」は北海道が運用する被災避難者サポート登録制度です。この制度は自治体の転出入届とは連動しておらず、転居の場合は住所変更のご連絡をいただかなければ、郵送物が「所在不明」として返送されてしまいます。転居、登録解除など、「ふるさとネット」の登録内容に変更がある場合はご連絡ください。

### ■連絡先

- ① NPO法人 北海道 NPO サポートセンター
- ② 北海道総合政策部地域創生局地域政策課

電話: **011-206-6404**

メール: **shienhonbu@pref.hokkaido.lg.jp**

- ③ 避難先市町村の担当窓口

(市町村により部署が異なります)

## 編集後記

旭川市市民活動交流センター CoCoDe の壁は煉瓦積み。その厚みは46~47センチだそうです。積み方は「フランス積で2枚積み」。フランス積は意匠的に優れ、美しいと言われています。120年以上経っても大切にされる建物は居心地もよかったです。ふと、最近建てられているビルや工場に120年後があるのかなあ、と思いましたが、あまり想像ができません。(金榮)



道内避難者心のケア事業

ウェブサイト: [https://hnposc.net/311\\_hokkaido](https://hnposc.net/311_hokkaido)